


## 都市再生プロジェクト推進調査費概要

1. 応募団体名	株式会社 八戸港貿易センター 担 当: 管理部 営業開発担当 廻 立 靖 彦 連 絡 先: Tel 0178-72-1505 Fax 0178-72-1503												
2. 調 査 名	港にぎわい「おんでやあんせ」プロジェクト												
3. 推薦団体名	八戸市 建設部 港湾河川課												
4. 調査の対象地域	青森県八戸市 (ポートアイランド(豊洲)地域)												
(1) 対象となる行政 区域名、地区名等	青森県八戸市 八戸港ポートアイランド 八戸港貿易センター												
(2) 対象となる行政 区域及び地区の特徴	八戸市の人口:(平成18年2月28日現在 外国人登録者含) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>人口総数</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>世帯数</th> <th>1世帯あたり 人員</th> <th>人口密度(1平 方km)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250,236</td> <td>120,887</td> <td>129,349</td> <td>100,119</td> <td>2.49</td> <td>819</td> </tr> </tbody> </table> <p>地区:地勢 海面埋立地による造成地(平坦地) 119,702 m<sup>2</sup> (155,899 m<sup>2</sup>中 36,198 m<sup>2</sup>処分 率23%) 施設:青森県地域輸入促進計画(FAZ 計画)に基づき 青森県・八戸市・独立行政法人中小企業基盤整備機構・民間等 74 社出資による第三セクター</p>	人口総数	男	女	世帯数	1世帯あたり 人員	人口密度(1平 方km)	250,236	120,887	129,349	100,119	2.49	819
人口総数	男	女	世帯数	1世帯あたり 人員	人口密度(1平 方km)								
250,236	120,887	129,349	100,119	2.49	819								
5. 提案した活動の内容	<p>(1)テーマ、課題</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">     </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>八戸市における「八戸港貿易センター」は平成8年に、FAZ法に基づき、FAZ事業の基本である「貿易支援」「物流支援」を実現するための中核として(株)八戸港貿易センター(第3セクター)として設立。貿易関連業者を支援する施設として八戸港ポートアイランド中心部に建設され、オフィスや展示場の賃貸事業等を行っている。</p> <p><b>【課題1】:</b>八戸港貿易センターはオフィス入居率及び1F展示スペースの稼働率低下など、現実的かつ柔軟な対応による経営改善が喫緊の課題になっている。</p> <p><b>【課題2】:</b>ポートアイランドは、主に保管施設、港湾関連業務施設等を対象として売却してきましたが、景気低迷の影響もあり、近年は企業向け用地の売却が思うように進まないという状況にあることから、売却促進のために売却基準を緩和し、企業にとって優位な立地条件を広くPRしており、企業誘致に弾みがつくと期待されている。</p> <p>地元市民のみならず再生に向けた意欲と活動体制は整っているものの、地域再生に寄与する革新的・実験的な試みを行うための資金繰りに苦慮しているのが現状である。また、ポートアイランドは、単発イベントや釣り客など一部の市民にしかこの場所が知られておらず、市民に対する認知度が低いことも問題になっている。</p> <p><b>【テーマ】:</b>「全国都市再生モデル調査」により市民活動をサポートし、八戸港貿易センター及びポートアイランドに人的交流の場を設け、社会実験を行い、港湾施設の新たな利用と港湾再生・地域経済活性化に結びつけたいと考えている。</p> <p><b>【追加テーマ】:</b>イベントの継続性の模索 「全国都市再生モデル調査」採択後、八戸青年会議所から申し入れがあった。会の趣旨である「明るいまちづくり」のため、中学生による「フォーラム」と、初めての試みだが、「冬花火」を計画している。連携可能かとの問い合わせに同意している。地域活性化のカテゴリーである。またイベントの継続性を模索するための具体のテーマと位置付けした。</p>  </div> </div>												

## (2) 本調査による

### ① 活動内容の概要

#### ①イルミネーション



#### ②現地中継基地(Be-FM)



#### ③点灯式(サンタクロースダンス)



#### ④ゴスペル隊



#### ⑤南郷ジャズ



### <活動体制>

(株)八戸港貿易センターを中心に、行政、NPO、みなとまちづくりを考える市民団体・一般市民・民間企業等が連携し、活動。

### 活動内容の概要

- コミュニターFM 放送 Be-FM(コールサイン JOZZ2AL-FM)
  - ・社会実験の事前告知(平成 17 年 12 月 1 日～12 月 24 日)
  - ・社会実験の実況中継(平成 17 年 12 月 24 日 )
- 社会実験のトータルコーディネーター(スタッフ 9 名)
- Lighting Symphony in 八戸ポートアイランド
- ☆ NPO・市民団体による社会実験  
平成 17 年 12 月 10 日 イルミネーション点灯式 17:00～22:00  
出演者 40 名 スタッフ 30 名 来場者 400 名
  - ・ “ワールドポート・イン・クリスマス”をテーマに船の進水式をイメージしたビルイルミネーションの点灯式セレモニー。
  - ・サンタクロースダンス・ゴスペルソング
  - ・レストラン de シアター クリスマスフードとともに映画
- ☆ クリスマス国際見本市 スタッフ 50 名 来場者 300 名  
平成 17 年 12 月 10、11 日 10:00～14:00



可搬式屋台小屋が並び輸入食材・雑貨、地元産品の物販  
ヨーロッパのクリスマス市をイメージした路地を再現

- ・ クリスマスジャズコンサート 地元ジャズバンドの演奏

- ☆ バイオイルミ Night ! 2005 Be-FM による全行程中継放送  
平成 17 年 12 月 24 日 13:00～17:00

スタッフ 70 名 出演者 100 名 来場者 400 名  
「エコなクリスマス」をテーマに環境に優しいエネルギーの紹介  
BDF 発電、パネル展、エコ工作教室、子供器楽演奏  
港湾パネル展、食の提供、南郷地区交流 ジャズ





6. 本調査と関連する活動  
実績



○「中学生“本気の”シンポジウム」八戸市の将来を考える  
平成17年12月23日 10:00～20:00  
平成17年12月24日 12:00～20:00  
スタッフ45名 中学生105名

「食」、「環境」、「地域活性化」をテーマに、ディスカッション。討論結果を八戸市長に提言。



食グループ考案のメニューをプロの料理人と試作・試食



○「冬花火 ポートアイランド」八戸市で初の試み  
打ち上げ花火全国大会で有名な大曲の花火師による



平成17年12月24日 16:50～17:30

観衆300名

Be-FMが中継放送。次年度以降の継続を要望されている。

## 7.本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など

港にぎわい「おんでやあんせ」プロジェクトは、「海から拓け、海とともに発展してきた」といわれる、八戸港のかつてのみなどの活気、賑わいを取り戻すために計画された。

特に、八戸港ポートアイランドをフィールドとして、FAZ施設である八戸港貿易センターを核としたポートアイランド内の既存港湾施設の新たな活用を試み、市民活動のサポート、人的交流の場を設ける等の社会実験を行うことで、港湾再生・地域経済活性化を基本とした都市再生のあり方を模索するものである。

八戸市独自の活気に満ちたみなとの魅力を再確認するとともに、新しい「みなとまちづくり」を提案し、調査後も継続して取り組んでいくことを目標とした。

本調査による社会実験は、各メディアから多くの取材を受けたこと、新聞紙上を賑わした事などの結果を得たことは、所期の目的を達したと考えている。

応募にあたり、「期待される効果」として、

- ① 臨海部の低未利用用地、低利用施設の有効活用によるみなと再生(港湾再生)
- ② 市民参加によるみなとの人的交流促進と地域経済活性化
- ③ 社会実験を踏まえたポートアイランドの売却促進
- ④ 八戸港貿易センター及びポートアイランドの認知度向上 を掲げた。

この4項目と調査実施過程で顕在化した事を考察すると、総括的には、開催時期が挙げられる。秋の菊祭りが終わり、市内の催事が途切れ、長い冬に突入した開催時期が、家にこもりがちになる市民を喜ばせた。来場した各界の方々、また世代を問わずこの時期での継続を望む生の声があったことである。

総括としての特筆は、市商工会の重鎮、市・県議会議員等の来訪で、「調査の趣旨・目的」について詳細説明を求められ、確実に「期待される効果」の伝達が出来た事、更に八戸港整備や特定重要港湾の指定の要望活動に関しての発言があり、波及効果があった事である。

地方公共団体が行うべき事業を、民間の資金・能力の導入によって官民共同で行おうとするものと言う大義名分がある第三セクターとしては、あらためて「発想の転換」と言う命題が顕在化したことは、社会実験を通じて、強く体感したことではある。また国・県による30年後の“青森の港湾ビジョン(案)”が纏められた。調査の舞台となったポートアイランドの第2期工事にも触れられた事を含め、新たな検討課題となっている。

八戸の海を育てて来た先人先達の偉業が、今日の八戸港の礎であり、偉業を再認識すると共に、育んでいかなければ成らないと考えている。時代背景の違いがあるにせよ現代に通じる「発想の転換」が底流にあるからである。調査の体制でもあったコミュニティー放送の中継を通じて、見つめ直す機会となっている。

本調査の①～④について社会実験を実施した側、参加した中学生、来訪者である市民誰もが、そういうことの行事であると認識を頂いた。取り組みの連携が取れたのである。その理由がある。地元企業が地元港湾地域で事業拡大を図ったが、助成制度の違いで他市に進出した。数ヶ月前のことである。その地域がポートアイランドただだけに社会実験は重要な意義があった。③のポートアイランドの売却促進のことであり、二の舞が許されない状況が惹起している。古くて新しい課題であり、所謂顕在化している。この事について、平成18年3月現在、青森県・八戸市それぞれの議会でも議論がなされ、港湾再生を期待させる報道がある。経済界はもとより市民の関心度も高い。従って結語は、第三セクターとして、調査が終了しても「期待される効果」として掲げた項目について至上命令と捕らえ、継続していきたいと考えている。